ごあいさつ — 『研究集録／実践報告』への期待—

今、私たちはコロナ禍という、見えないものによる生命と生活を脅かされる生活状況の中で、現代人のだれもが未経験の生活様式を強いられる日々を送っています。そこでの私たち障害児者支援現場の新型コロナウイルス感染拡大防止対策に係る緊張は大変なものがあります。そうした中、この『研究集録／実践報告No.53』への原稿執筆にご協力いただいた皆さん、そして編集・発行にご苦勞いただいた皆さん。誠にありがとうございます。深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

今年度の『研究集録／実践報告No.53』にも、いくつもの心に残る文章がありました。紙面の都合で、すべてをご紹介することができません。申し訳ありません。その中からいくつかの文章を以下にご紹介させていただきます。（参考にそれぞれ各文章の掲載ページを記しました）

- ・それはAさん自身が変わったのではなく、職員の対応の変化がもたらした結果であると考え。 (p.95 員光園)
- ・私たちにとっての“当たり前”が利用者さんたちにとっての“当たり前”ではない。 (p.119 くすの園)
- ・初めは気を付ける点など否定的になりがちでしたが肯定的な文章に変え、例えば「廊下は走りません」⇒「廊下は歩きましょう」などとして現在の形になりました。 (p.124 なごみの里)
- ・本人の行動（こだわり）を止めるのではなく、納得がいくようにするにはどうしたら良いか今一度考え (p.125 なごみの里)
- ・利用者の行動や作品を異質としてとらえない。色やこの空白が寂しいから何か描くよう促す等の価値観の押しつけは良くない。利用者の意思を尊重し、ありのままを受け入れる。 (p.135 第1しょうせい苑)
- ・エアロバイクに取り組んでいる利用者本人が、他の利用者から励ましの声掛けをしてもらったり、皆に頑張っている姿を見てもらえていることでやる気が起き、それまで嫌々取り組んでいた利用者も、今は笑顔で取り組むようになりました。 (p.151 うべくるみ園通所部ともに)
- ・どんなに重度の方でも環境を整えば必ず働くことができる。そのような想いで長年支援に携わってきた。 (p.180 ソイルセンター)
- ・利用者と、ゆったりとした話し合いの場を持つことで、食事面だけでなく、その他生活の場面での過ごし方ややりとり、他者との関係性なども話し合いの中で垣間見えてくる。 (p.215 柳井ひまわり園)
- ・これまでは障害だから仕方ない、障害者は進歩しないなどと社会的イメージを持ってEさんに接していました。しかし、日々、Eさんに接していくうちに、障害者と呼ばれているEさんの障害にとらわれるのではなく、一人の人間としてのEさんを理解しようと努力したことで、一歩前へと意識が変わりました。 (p.206 さつき園第1やしほホーム)
- ・『障害者施設における備蓄食品の検討と対応への取り組み』 (p.216～ ひらきの里)

この内容は皆さんの施設・事業所で、是非、参考にさせていただきたいものと思います。(古川) 私はこうした、常に利用者の人権を尊重する高い問題意識を持って、日々、障害児者支援に携わる施設・事業所職員の皆さんを誇りに思い、密かに感動しております。

職員の皆さん。これからも利用者主体の質の高い障害児者支援の実践に向けて、より一層の研鑽・努力を積まれますよう、期待いたしております。

令和2年11月

一般財団法人 山口県知的障害者福祉協会
会長 古川 英希